

S9-2-3. J R 東日本グループの持続可能な社会へ向けた取り組み

○宮 城 利 久 (東日本旅客鉄道株式会社)

三 輪 渡 (東日本旅客鉄道株式会社)

JR East Group's Attempt for Sustainable Society
Toshihisa Miyagi, Wataru Miwa (East Japan Railway Company)

JR East Group is attempting for sustainable society in terms of environment, society, and economy.

To implement CSR(Corporate Social Responsibility) proactively, the group is also strengthening management structure regarding corporate governance, compliance, accountability, and risk management.

JR East Group has a basic philosophy that is possible to protect the environment while doing its business activities. Based on this, we established activity guidelines and numerical goals to more specifically measure environmental activities. Because of the nature of corporate activities, JR East Group is striving for environmental protection with two approaches: "creating a railway with less environmental loads" and "creating a railway with more desirability."

キーワード：持続可能な社会、CSR、環境保全

Keywords: Sustainable Society, CSR (Corporate Social Responsibility), Environmental Protection

1. 持続可能な社会への取り組み

J R 東日本グループは、持続可能な社会の実現に向けて「環境面」、「社会面」、「経済面」での取り組みを進めている。

(1) 環境面での取り組み

地球の環境容量には限界があり、また地球上に存在する資源の量にも限りがある。人類の活動はこの範囲内で行われなければならないことは今や誰の目にも明らかである。

J R 東日本グループは 1992 年に社内体制を整備し、環境問題に対する本格的な取り組みを始めた。

主要事業である鉄道では、より環境負荷の低い輸送手段の確立をめざし、従来の約半分のエネルギーで走れる省エネルギー車両の導入や、自然エネルギー利用を推進している。また、量・種類ともに多い各種ゴミの削減・リサイクルなど、さまざまな取り組みを進めている。さらに、グループ会社においてもこれを把握し、改善に努めている。

今後も環境教育を通じた社員の啓発などを通じて、グループ全体での環境負荷低減に向けた取り組みを強化・推進していく。

(2) 社会面での取り組み

企業は社会的な存在であり、その存立基盤である社会か

らの信頼なしには、事業そのものが成り立たない。

鉄道を事業の軸としている J R 東日本グループに課せられているいちばん重要な社会的責任は、安全・安定輸送である。J R 東日本グループは、会社設立以来、安全対策に対し研究開発、投資を通じて最も力を入れてきた。

また、お客様の満足の追求も重要であると考えている。鉄道を利用される全てのお客様、グループ会社のサービスを受けられる全てのお客様に対し、提供するサービスの質の向上を図るため、日々お客様から頂く声を大切にしている。同時に、事業を展開する地域住民の方々との協力関係を基に、駅を拠点とした住みよい社会づくりへの努力も続けている。

これらの役割を十分果たしていくためには、J R 東日本グループ全ての社員が、誇りをもって働くことのできる職場をつくることも重要であると考えている。

(3) 経済面での取り組み

企業が存続していくためには、事業から適正な利益を継続的に獲得することが必要である。

しかし、企業の目的は利益を獲得することだけではない。また、企業の社会に与える影響は大きく、さまざまなステークホルダーが存在する。このため、J R 東日本グループは、事業活動に関わる全てのステークホルダーとの経済的関係を把握することにも努めている。

2. CSRに対する基本姿勢

JR東日本グループは、社会的責任（CSR）を積極的に果たすため、企業統治、法令遵守、説明責任、危機管理の4つの分野について、マネジメント体制の強化に取り組んでいる。

(1) CSRに対する基本的な考え方

JR東日本は、社会の発展を目的として建設された歴史を持つ鉄道を事業の軸としていることから、社会や地域との関わりが非常に強く、事業活動を通じて社会に貢献し、社会的責任を果たしていくという意識が企業風土のなかに醸成されている。

近年、CSRがクローズアップされ、高い倫理観の保持、透明度の高い経営の実施、さらには地球環境問題への対応など、社会全体が抱える重要な諸問題への積極的かつ真摯な取り組みが企業に求められている。JR東日本グループは「グループ理念」に忠実に事業展開を行うことで、社会から寄せられる期待やステークホルダーからの信頼に応える企業グループを目指している。

(2) 企業統治の確立

JR東日本は、取締役会での議論をより一層活性化し、意思決定の機動性・迅速性を向上させるために、取締役会のスリム化を図りました。また、役付取締役などで構成されるグループ戦略策定委員会をおき、グループに関する重要事項についての審議を行っている。

内部統制については、社外の視点を取り入れつつ、必要な体制を整備している。

(3) 法令遵守の確保

コンプライアンスや高い倫理観に基づく事業運営は、企業の存続のための当然の前提であるとの考えから、社内の各種法的な問題や法的リスクに早期に対応する体制を構築している。

(4) 説明責任のための情報開示の充実

ステークホルダーの皆さまに、JR東日本グループについてさらなるご理解と信頼をいただくため、広報活動やIR活動を通じて、グループの取り組み内容について積極的に情報発信を行っている。また、ホームページなどを活用して、重要な企業情報を適性かつ迅速に開示することに努めている。

(5) 危機管理体制の強化

JR東日本グループの事業運営上重大な危機が発生した場合に、情報の収集・一元管理と初動体制の整備を迅速に行うことを目的として、危機管理本部を設置している。経営トップが初期段階から関与して対応の遅れを防ぐとともに、適切な情報開示、コンプライアンスの視点の導入により、被害損失の最小化を図っている。

また、リスク情報が迅速に伝わる風通しのよい企業風土を醸成するため、危機・情報管理体制の強化を進めている。

3. 環境に関する基本的な考え方

JR東日本グループは「事業活動と環境保護の両立」という基本理念を制定している。この理念のもと、行動指針および数値目標を定め、具体的な環境保全活動に取り組んでいる。JR東日本では、事業活動の特性を活かし、以下の2つのアプローチで環境への取り組みを進めている。

(1) 環境負荷の小さな鉄道を創る

JR東日本では事業活動により生じる環境負荷の低減を図るため、車両の省エネルギー化やゴミのリサイクルなど、自主的な取り組みを進めている（図1参照）。

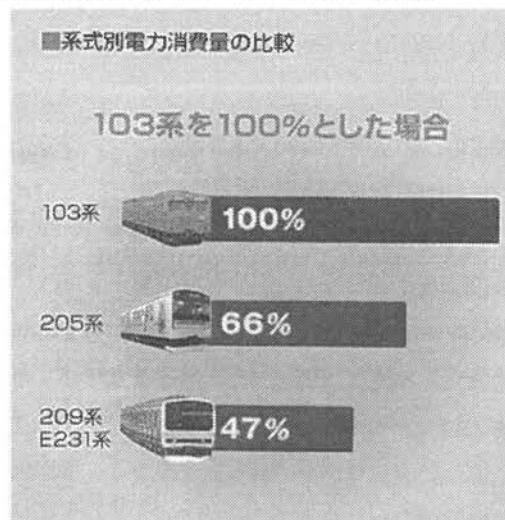


図1 系式別電力消費量の比較

(2) ご利用いただきやすい鉄道を創る

鉄道は他の交通機関と比較して、単位輸送量当りの環境負荷が低いという環境特性をもっている。この環境特性を最大限発揮できるよう、自動車と鉄道を組み合わせた移動形態であるインターモーダルなどの取り組みを進め、交通機関全体の環境負荷の削減を目指している（図2参照）。

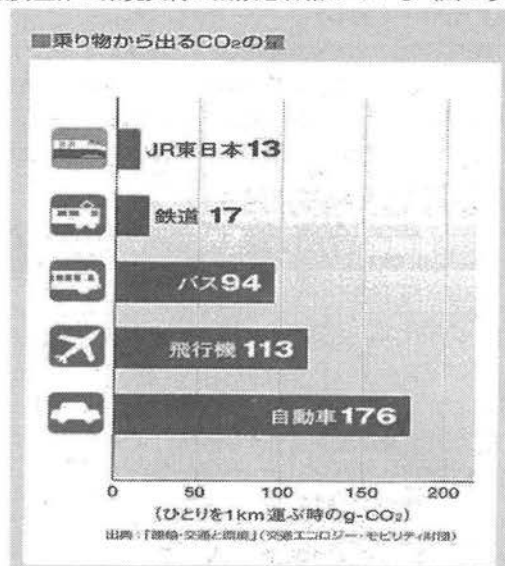


図2 乗り物から出るCO₂の量